

fig. 162 木津地区試掘調査地点 ($S = 1/5,000$)



fig. 163 木津地区試掘調査地点 ($S = 1/5,000$)



fig. 164 城ヶ谷遺跡試掘調査地点 (S = 1 / 5,000)

V. 保存科学調査・作業の概要

本年度も遺物と遺構の活用を計るために、保存科学による調査と作業を継続して行った。遺構については、記録保存の1つの方法として土層転写の手法により、調査地で検出した遺構の表面を剥がし取り、室内でいつでも見ることができるようしている。また、遺物については、材質や構造の調査を行い、劣化により崩壊する可能性のあるものについては、劣化防止の処置を行っている。

1. 遺構に関する保存科学

舞子浜遺跡
第9次調査

本年度に9次調査が行われ、砂堆上で円筒埴輪棺が6基検出された。そのなかで3号棺と7号棺には円筒埴輪棺を据える前に、掘形の中に粘土を敷きつめていることが確認できた。これを記録する1つの方法として、円筒埴輪棺を取り上げた後に主軸に直交する断面を断ち割り、その断面の土層転写を行った。転写には転写用合成樹脂（商品名トマックNS10）を水と反応させて用いた。転写後は余分な土砂を水洗により取り除き、十分に乾燥してからエポキシ系合成樹脂で展示パネルに接着している。

また、今回の調査では、周濠状遺構の中に赤色顔料が集中している部分を検出している。この赤色顔料が故意に置かれたか否かは不明であるが、堆積の状態は円筒埴輪棺と同時期であることから、葬送儀礼に伴い用いられていたと考えられる。この赤色顔料の状態を記録することと、その取り上げを目的として、平面および断面の土層転写を行った。転写の方法と材料は、先の円筒埴輪棺の掘形断面の転写と同様である。断面での観察から、顔料の分布範囲と濃淡から、本来は直径約20~30cmの範囲で、約20cm離れて2ヶ所に置かれていたものが拡散していくと推定することができる。



fig. 165 舞子浜遺跡断面土層転写作業

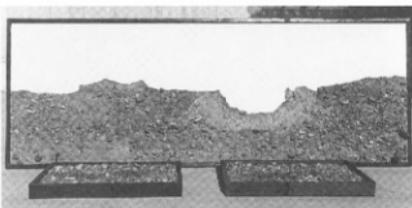


fig. 166 同左展示パネル

垂水・日向
遺跡11次調査

これまでの調査で、アカホヤ火山灰の降下層準が確認されていたが、今回も良好な状態でこれを確認することができた。特にアカホヤ火山灰降下層準直上の面で、明確な人間の足跡を検出している。この足跡はアカホヤ火山灰の再堆積の下位であることから、火山灰降下直後に干涸状態であったこの地を、人間が歩いていたことを物語っている。

この足跡を記録する1つの方法として、足跡検出面で平面の土層転写を行った。転写用合成樹脂として、エポキシ系合成樹脂（商品名トマックNR51）を用いた。転写後は、水洗、乾燥させて、平面での展示と保管や運搬を考慮し、パネルに貼らずにそのまま巻いて保管している。その他に、アカホヤ火山灰中の漣痕の断面についても転写を行っている。

2. 遺物に関する保存科学

西求女塚古墳 昨年度に引き続き、青銅鏡についてはX線透過像による観察や、奈良国立文化財研究所の協力により蛍光X線分析を行っている。鉄製品については、X線透過を行い点数や形状の確認と、サビの進行を防ぐためにアルコールにより慎重に土砂を除去している。これらの応急処置を終えたものは、温湿度の安定した特別収蔵庫で仮保管している。



fig. 167
西求女塚古墳11号鏡付着織物

狩口台きつね 原始4年度の発掘調査で出土した、金銅装馬具を含む金属器について本年度から2か年
塚古墳 保存処理費が文化庁の補助金で認められ、本年度から処理を始めた。



fig. 168 狩口台きつね塚古墳鉄錆の茎部に付着した有機物の痕跡



fig. 169 同左の断面



fig. 170 狩口台きつね塚古墳花形杏葉鉄地板に付着した有機物の痕跡



fig. 171 同左の拡大

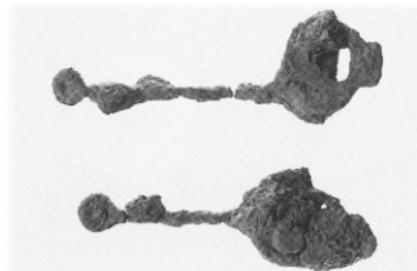


fig. 172 狩口台きつね塚古墳出土（保存処理前）

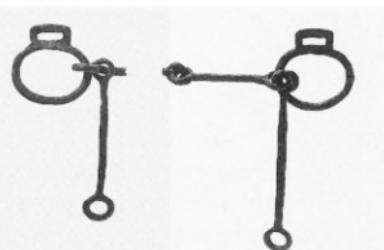


fig. 173 同左（保存処理後）

大田町遺跡

和同開珎等の銅銭は、須恵器壺内の底付近で発見された。この壺は土師器皿で蓋をされていたようであるが、検出時はすでに壺の口縁部まで土が詰まっていた。そのまま室内に持ち込みX線透過像で内部の観察を行ったが、土が充満しているため何も確認できなかった。次に内部の土を慎重に取り除いていった。底に近くなつた部分から土壤の有機質化が著しくなり、種子が密集した状態で確認できた。その直下から最初の銅銭1枚を取り上がり、和同開珎と判読できた。さらに遺物の存在が予想されたので、再びX線透過撮影を行い、他に銅銭5枚の存在を確認した。このX線像をもとに土砂および種子を壺から取り出し、銅銭の出土状況の観察を行った。記録作成後、銅銭を取り出し、サビの状態の観察を行った後すぐにアルコール洗浄と脱水を繰り返した。乾燥後ベンゾトリアゾール2%溶液を減圧含浸し、次にアクリル系合成樹脂（商品名パラロイドB72）を減圧含浸し、防錆と強化を計った。

種子については、各種の一部を同定用としてアルコール水溶液で液浸保存し、その他は展示用として、アルコール脱水後にアクリル系合成樹脂（商品名パラロイドB72）をしみ

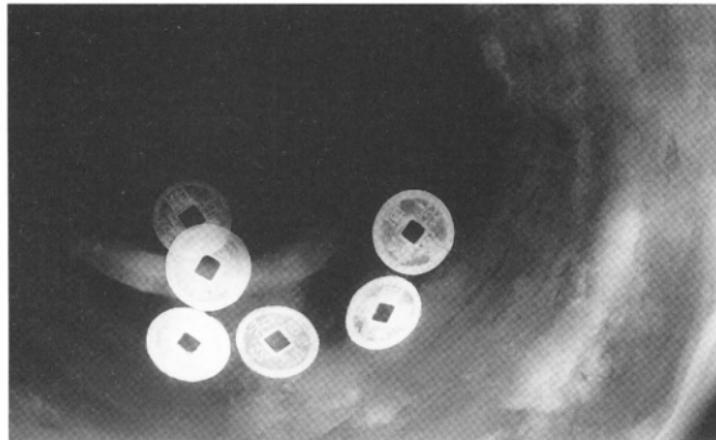


fig. 174 大田町遺跡出土須恵器壺内部のX線透過像 3mA 80kvp 120sec.

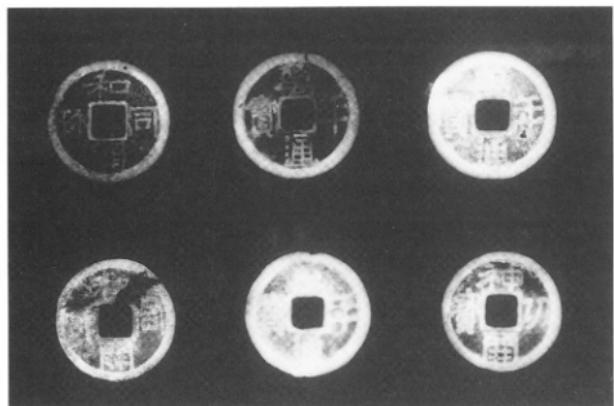


fig. 175

大田町遺跡出土銭貨 X線透過像
3mA 80kvp 75sec.

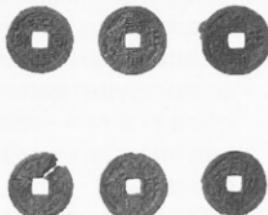


fig. 176
大田町遺跡出土銭貨

込ませて、保護と強化を計っている。

木製品

本年度も継続してポリエチレンゴリコール (PEG) 含浸により木製品の保存処理を行っている。震災により含浸槽内のPEG溶液が槽外に一部こぼれたが、停電時間も短く、溶液の濃度も60%以下であったため、処理中の遺物に著しい損害を与える事はなかった。

材質及び

本年度は、下記の材質及び古環境の調査を、外部に委託して行った。それぞれのデータ

古環境調査

およびプレバラート等は、文化財課が保管している。

調査名	残留脂肪酸	木製品樹種	土器胎土	珪藻	花粉	種実	プラントオパール
北青木遺跡		189点	150点	7点		3 ブロック	
祇園遺跡3次				3点			
舞子浜遺跡8次、9次	5点		26点				
玉津田中遺跡平野地区		205点			5点		5点
新方遺跡北方3次、大日2次		5点			7点	1 ブロック	
白木遺跡3次		176点			6点	2 ブロック	6点
五番町遺跡5次			90点		5点		5点

平成 6 年度 神戸市埋蔵文化財年報

価値1,800円

平成 9 年 3 月 印刷

平成 9 年 3 月 発行

発 行 神戸市教育委員会文化財課

神戸市中央区加納町 6 丁目 5 番 1 号

☎ 078 (322) 5798

印 刷 水山産業株式会社

神戸市長山区二番町 3 丁目 4-1

☎ 078 (577) 3757㈹

広報印刷物登録・平成 8 年度 第295号 A-6類



本書は、再生紙を使用しています。